

札幌市市民活動サポートセンター運営協議会
令和2年度第1回実施概要

1 日時

令和2年 9月 11日 (金) 18:30~20:30

2 会場

札幌エルプラザ公共4施設2階 会議室3・4
(Zoomによるリモート参加2名)

3 出席者

- (1) 委員：松田委員、今野委員、宮本委員、竹次委員、水谷委員、高橋委員、南委員、
柏原委員
- (2) 札幌市：市民文化局市民自治推進室市民活動促進担当課係長
- (3) 事務局：(公財) さっぽろ青少年女性活動協会 スタッフ

4 議事

- (1) 事業、運営状況報告について（令和2年度について現段階での報告）
- (2) 令和3年度事業計画について
- (3) その他、意見交換

5 議事概要

- (1) 事業、運営状況報告について（令和2年度について現段階での報告）
事務局から利用人数、件数および事業の実施状況について令和2年度の報告を行った。
配信型の講座や動画など、実際に委員が視聴した。

Q 動画は誰を対象として流しているものなのか。

A 当初は来館者を対象としたものを制作していたが、コロナ禍での閉館で状況が変わり
市民活動について知らない層への解説や団体のCMなども範囲に含めていくように
なった。今後は誰のためにどこで流すかをより意識していきたい。

Q 札幌市市民活動サポートセンターは Facebook や Instagram などの SNS アカウントを持っているか。

A Facebook アカウントを開設しており、Youtube チャンネルとも連携して運用している。

Q 制作した商業動画は団体に対して使用方法や後継先などの制限があるのか

A 特に制限は設けていない。広く活動の中で運用してもらえればと考えている。

【意見】

- ・4月から活動を始めようとしているが不安に感じている団体も多いと思われる。そういった団体の先を読んで情報を出さなければならない状況が次年度は出てくる。
- ・Facebook 等はサポートセンターそのものに興味のある層には届くが、それぞれの団体のコミュニティーやそこに関心のある方々に届けるためには、違う観点も必要。プロモーション的な支援が今後必要になるかもしれない。

(2) 令和3年度事業計画について

事務局から令和3年度事業計画について報告を行った

Q 情報発信サポート事業はイベント告知のような単発の発信にも対応する予定か。

A 今後、取り入れていきたいところだが、告知部門と一般（従来のCM動画）部分で分けるなど細かくは決めていなかった。整理したうえで計画に盛り込んでいきたい。

Q オンライン、オフライン両方に対応した事業で問題点があったのであれば知りたい。

A 両対応にする場合は、進行も両対応にしないとオンライン側が置いていかれることが多い。それによって機材構成等を各々考えなければならないという難しさはある。

Q 「人材養成講座」という事業があるが、サポートセンターとして目指すべき市民活動の増というのはあるのか。

A 各々活動も違い、正しい姿は1種類こうであると言い切ることは難しい。人材という言葉だと強く聞こえてしまったかもしれないが、趣旨としては市民活動に入って行く方を増やしたいというイメージで使っている。

【意見】

- ・講座等のアーカイブ化には賛成。うまく使える戦略を練ってほしい。何かしらの良いシステムが構築できれば活動や学びも広がると思う。
- ・NPO インターンシップについて学生団体が主体となっているという事例がある。センターとしても参考になるのでは。
- ・自分で検索・アクセスしてたどり着ける人ではない層、自分でなかなかそういった場に出ていけない、動き出せない層の巻き込み方が難しくなっていると感じている。そうした方々の窓口をサポートセンターがなってくれればと思っている。
- ・サポートセンターがコロナの影響で会員数が減少したり寄付が少なくなったNPOに対する相談を受けるというPR、企業等の応援する側の話も聞くというPR、その両方が必要になってくると思う。
- ・オフラインイベントの情報も必要。何人規模のものであれば実施できた、実施に際しての工夫など共有できるとよい。
- ・利用者同士や団体間の意図的な交流の場が設定されていればよいと思う。例えばオンラインサロンは無料で開設できる。意図的にそこに集めて企業や行政がそこにアクセスできるようにすれば新しい価値が生まれるのでは。

(3) その他、意見交換

Q サポートセンターの wi-fi 回線は接続数や要領に利用制限があるのか

A 特段の制限は設けていない

以上